

18. 幼児歯科健診結果に係る追跡調査について(口述発表11-2, 保健・医療・福祉サービスの充実のために, 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録)

著者	村上 明継, 山田 淑子, 中村 美栄子, 成田 幸子, 反町 吉秀, 山中 朋子, 宮川 隆美
雑誌名	青森県立保健大学雑誌
巻	9
号	1
ページ	88-89
発行年	2008-06
URL	http://doi.org/10.24552/00001896

- 1) 青森県東青地域県民局地域健康福祉部保健総室（東地方保健所）
- 2) 青森県健康福祉部保健衛生課
- 3) 青森県上北地域県民局地域健康福祉部保健総室（上十三保健所）
- 4) 青森県西北地域県民局地域健康福祉部保健総室（五所川原保健所）

Key Words：①幼児歯科健診 ②母子歯科保健 ③追跡調査 ④う蝕有病 ⑤生活習慣

I. はじめに

平成17年度における青森保健所（現東地方保健所）管内の幼児のう蝕有病率は1歳6か月児3.6%、3歳児38.8%であり、わずか1年半の間に新たに35.2%の幼児がう蝕に罹患している。当保健所では、このような状況を踏まえ、今回、管内市町村（青森市を除く）の幼児を対象として幼児歯科健診の結果に係る追跡調査を実施し、若干の知見を得たので報告する。

II. 目的

本調査は、幼児の生活習慣等とう蝕有病との関連の有無を明らかにし、管内市町村における母子歯科保健、特に幼児う蝕予防の取り組みを促進することを目的とした。

III. 研究方法

調査の対象は、平成17年度管内各市町村3歳児歯科健診受診者（青森市を除く）のうち、平成15年度1歳6か月児歯科健診時のデータが得られた者129人と

幼児歯科健診結果に係る追跡調査について

村上 明継¹⁾ 山田 淑子²⁾ 中村美栄子¹⁾
成田 幸子¹⁾ 反町 吉秀³⁾ 山中 朋子⁴⁾
宮川 隆美¹⁾

し、データ収集の後に集計と分析を行った。データ分析は以下のような方法で行った。

1. 1歳6か月児歯科健診時の質問事項に掲げられた生活習慣等について、それぞれ2つのカテゴリーに分け、カテゴリー別に3歳児歯科健診時におけるう蝕有病率及び平均う蝕数を算出し、カテゴリー間で比較する。う蝕有病率については χ^2 検定、平均う蝕数については Mann-Whitney の U 検定を行う。
2. 3歳児歯科健診時におけるう蝕保有の有無及び平均う蝕数を外的基準、1歳6か月児歯科健診時における生活習慣等を説明変数とする林の数量化Ⅱ類及びⅠ類による多変量解析を行う。生活習慣等のうち、欠測値があるものは解析の対象から除外する。

IV. 結果

1. う蝕有病状況

1歳6か月児歯科健診時はう蝕有病率3.88%、平均う蝕数0.14本であり、3歳児歯科健診時は44.19%、2.26本と急激に増加していた。

2. 各生活習慣等におけるカテゴリー別のう蝕有病率及び平均う蝕数の比較

1歳6か月時の各生活習慣等について、カテゴリー別に3歳児歯科健診時のう蝕有病率及び平均う蝕数を比較した結果、両者ともに、「よく飲んでいる飲み物の種類」、「哺乳びんの使用の有無」、「間食の与え方の規則性」、「1日の甘味物の摂取回数」の4項目において、有意差が認められた。これら以外の10項目では、カテゴリー間の有意差は認められなかった。

3. 各生活習慣等がう蝕有病に及ぼす影響の程度

う蝕保有の有無を目的変数とする多変量解析の結果、偏回帰係数及びレンジは、「よく飲んでいる飲み物の種類」が最も高く、以下、「指しゃぶりの有無」、「おやつとの与え方の規則性」、「食事に時間の規則性」、「性別」、「乳児期の主栄養」と続いていた。

4. 各生活習慣等が平均う蝕数に及ぼす影響の程度

平均う蝕数を目的変数とする多変量解析の結果、偏回帰係数及びレンジは、「指しゃぶりの有無」が最も高く、以下、「よく飲んでいる飲み物の種類」、「おやつとの与え方の規則性」、「性別」、「食事に時間の規則性」、「乳児期の主栄養」と続いていた。

V. 考察

1歳6か月児歯科健診時の各生活習慣等について、カテゴリー別に3歳児歯科健診時のう蝕有病率及び平均う蝕数を比較した結果、「よく飲んでいる飲み物の種類」、「哺乳びんの使用の有無」、「間食の与え方の規則性」、「1日の甘味物の摂取回数」の4項目において有意差が認め

られ、これらの間食・飲料摂取習慣がう蝕有病と関連があることが示唆された。

「フッ化物歯面塗布の有無」や「保育者による歯みがきの有無」など、有意差が認められなかった項目では、一方のカテゴリーにおけるN数の偏りが影響した可能性があると思われた。フッ化物歯面塗布は、幼児のう蝕予防に有効とされており、意外な結果であったが、塗布方法や塗布回数が影響した可能性も考えられた。

多変量解析の結果、生活習慣等とう蝕有病との相対的な関連の程度が推測された。なお、「指しゃぶりの有無」は、個々の生活習慣等の分析ではう蝕有病との関連は認められなかったが、多変量解析の結果から関連が示唆された。

VI. 結論

今回の結果から、1歳6か月以降のう蝕有病率や平均う蝕数の急増を防ぐため、1歳6か月児歯科健診やそれ以前のあらゆる機会を利用して、保護者に対し間食や飲料の摂取習慣に関する歯科保健指導を徹底して行う必要があると思われた。

VII. 文献

河端邦夫, 宮城昌治, 笹原妃佐子, 河村誠, 北本純司, 長尾誠, 森下真行, 岩本義史: 保健所における母子歯科保健Ⅰ. 1歳6か月時の生活環境と3歳時のう蝕り患状況について, 口腔衛生会誌, 42, 101 ~ 108, 1992.

日野出大輔, 嶋田順子, 小原英司, 寺井浩, 山崎都美恵, 和田明人, 佐川肇, 佐藤誠, 中村亮: 3歳児の乳歯う蝕罹患に関する要因の分析, 口腔衛生会誌, 38, 631 ~ 640, 1988.